

自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表(令和5年度)

上天草看護専門学校

カテゴリー	評価項目	評価	平均	平均	自己点検・自己評価総括	総合評価	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的	1-1 教育理念・教育目的は、自養成所の特徴を示している。	2.70	2.6	2.62	当校の教育理念は校訓を受けて設定されており、その校訓は教職員及び学生への周知のためにエントランスと各教室に掲示している。教育目的は、教育理念を受けて設定されており、看護教育についての考え方、目指す卒業生像をイメージできるようにしている。教育理念・教育目的は学生便覧に示し、入学時オリエンテーションで説明することで、学生自身が教育理念・教育目的を意識づけられていると考える。今後、より継続した学修の指針になるように、年度初めや前期・後期の振り返りの際、また行事などのイベント時にも再確認できるように働きかけていく。	2.6	教育理念・目的については、校訓をもとに明示されており、教員・学生の指針となっている。今後は折に触れ再確認できる働きかけても願いたい。 教育環境、学生観についての明示が不十分であると前回評価で課題になっていたため、今後検討をお願いしたい。
	1-2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	2.80					
	2-1 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	2.60					
	2-2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	2.50					
	3-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	2.60					
	3-2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	2.60					
	3-3 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	2.50					
	4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護教育、学生観について明示している。	2.40					
	4-2 看護、看護教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	2.40					
	5-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	2.90					
5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	2.80						
Ⅱ 教育目標	1 教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性がある。	2.7	2.7	2.69	教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性を考慮し、6つの目標から成り立っている。その中で、人間理解のための豊かな人間性の育成、専門職業人としての能力の育成、継続教育との関連性を具体的に提示している。また、教育目標と関連させて、学年別到達目標を定めている。今後も各学年の到達目標を意識し取り組めるように働きかけていく。	2.7	教育目標は、教育理念・教育目的の一貫性があるものとなっている。また、教育目標と関連させて、学年別到達目標を定めている。今後も継続して取り組んでいっていただきたい。
	2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	2.7					
	2-2 教育目標は、最高位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	2.7					
	3-1 教育目標は、教育内容と到達レベルが対応している。	2.7					
	3-2 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	2.8					
	4 看護実践者としての能力を育成側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	2.7					
5 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2.5						
Ⅲ 教育課程経営	教育課程経営者の活動	1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	2.2	2.2	科目と単元の構成、単位履修の方法は、学生便覧で示し学生の単位修得の支援となっている。旧カリキュラムと新カリキュラムの混在する最後の年度となり、管理面で複雑な部分はあったが、問題なく終えることができた。 教員の自己研鑽のため研修は各個人で研修会・学会等を希望し参加している。しかし、教員同士が学び合う環境としての体制づくりに課題があるため、教員が相互に成長できるように授業研究の実施等を取り組んでいく。	2.3	新・旧カリキュラムが混在する状況で複雑な部分があったと思うが、きちんと整理されており特に大きな問題はなかった。教員の成長は、学生への支援・教育に大きく影響を与えるものである。教育が相互に成長できるような体制づくりに取り組んでほしい。
		1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	2.1				
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を構成している。	2.4	2.5			
		1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を構成している。	2.6				
		1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠を持って教育課程を構成している。	2.4				
	科目、単元構成	1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	2.7	2.6			
		1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2.6				
		1-3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	2.5				
		2-1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	2.7				
	教育計画	2-2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	2.5	2.5			
		1-1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	2.5				
		1-2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	2.7				
	教育課程評価の体系	2 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	2.3	2.30			
		1-1 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	2.7				
1-2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。		2.9					
2 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。		2.5					
3-1 教育課程を評価する体系を整えている。		2					
3-2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。		2					
教員の教育・研究活動の充実	1-1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	1.7	1.5				
	1-2 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	1.7					
	2-1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	1.4					
	2-2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	1.2					

	学生の看護実践体験の保障	1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	2.1	2.3			
		1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学修を支援する体制を整えている	2.1				
		2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	2.2				
		2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	2.1				
		2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	2.3				
		3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	2.6				
		3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基いて、学生への指導を計画的に行っている。	2.5				
		4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	2.6				
		4-2	学生に対する安全教育、安全策を計画的に行っている。	2.5				
IV 教授・学習・評価過程	授業内容と教育課程との一貫性/看護学生としての妥当性/授業内容間の関連と発展	1	授業内容は教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.6	2.4	2.19	教育内容や科目目標・学習内容・評価については、シラバスに示している。 授業形態は、授業内容に応じて変えるなど教員個々で工夫し、演習を強化している。学生からの授業評価(授業アンケート)を行い、授業の振り返りと内容の見直しを行っている。しかし、全科目の実施には至ってないため、外部講師にも理解・協力を得てWEBでの授業アンケートも取り入れて、科目ごとの授業評価を実施していく。 R5年度より実習指導についてECTB(Effective Clinical Teaching Behaviors)による学生評価を得て振り返る機会を設けている。今後も評価をもとに実習指導に反映していく。	2.2
		2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	2.4				
		2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標と整合性をもっている。	2.5				
		3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	2.5				
	4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2					
	授業の展開過程	1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.6				
		2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2.2				
		3	授業の展開過程の他に学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	2.1				
		4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	2				
	目標達成の評価とフィードバック	1-1	評価計画を立案し実施している。	2				
		1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	2				
		2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	1.7				
		2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	2				
	学習への動機づけと支援	3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	2.3				
		3-2	単位認定のための評価には公平性が保たれている。	2.2				
		1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	2.2				
1-2		シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.1					
V 経営・管理過程	設置者の意思・指針	1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	2.1	1.9	学校運営会議、職員会議を適宜行い、教職員への伝達・共有・検討を重ねている。 教職員も経営的な視点を持ち、財源や予算について把握できるようにしていく必要がある。また、意思決定システムを明確にし、教職員の意思を反映できるような組織作りが必要である。自己点検・自己評価を毎年年度末に行っているが、教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善に繋がるように中間評価を行っていく必要がある。	1.8	
		1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	1.8				
		1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	2.1				
		1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営についての考え方を明示している。	1.8				
		1-5	明示した管理者の考え方と、設置者の意思は一貫性がある。	1.8				
		1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	1.8				
	組織体制	1-1	養成所の組織体制は教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	1.9				
		1-2	意思決定システムが明確になっている。	1.7				
		1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	1.7				
		1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	1.8				
		2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	1.8				
		2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	1.7				
財政基盤	1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	1.6					
	1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	1.5					
	2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているのかを理解している。	1.5					
	2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	1.7					
施設設備の整備	1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	1.8					
	1-2	管理者の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している。	1.7					
	2-1	看護の専門教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	1.8					
	2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	1.7					
	3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している。	1.6					
	3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	1.8					

	学生生活の支援	1-1	学生が入学後に学習を継続できる支援体制を多角的に整えている。	2						
		1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	2.3						2.1
		1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	2.1						
	養成所に関する情報提供	1-1	教育・学習活動に関する情報提供関係者(保護者等)に行っている。	2.3						1.9
		1-2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援があることにつながっている。	1.9						
		2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	1.6						
	養成所の運営と将来構想	2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	1.6						1.4
		1-1	養成所は明確な明確な将来構想をもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	1.4						
	自己点検・自己評価体制	1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	1.4						1.9
		1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	2.3						
		1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	1.7						
		2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	2.1						
2-2		自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、事業実践にフィードバックするよう機能している。	1.9							
	2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるよう機能している。	1.7							
VI 入学	1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学選抜についての考え方を述べている。	2.1	1.9	1.90	入学者の状況や入学者の入学後の推移等、統計的に把握している。入学選考については、募集要項に則り適切に実施し、学校運営会議(合否判定会議)を経て合格者を決定している。アドミッションポリシー(求める学生像)を明記し、受け入れ方針を明らかにしている。教育効果の視点から分析・検証が不十分であるため、今後検討していく必要がある。入学者の人員確保が課題となっているため、高校訪問やオープンキャンパス、1日看護学生体験等を実施し本校をPRしていく。R5年12月にホームページをリニューアルした。Instagramを開設しSNS等でも学校の状況を発信し、PRしていく。また、今後その効果についても分析していく。	1.9			
		2	入学者状況、入学者の推移について、入学選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。					1.7		
VII 卒業・就職・進学	1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	2.2	1.6	1.63	看護師国家試験合格率と実習評価、授業評価、看護技術到達度表から到達状況を把握している。また、卒業前に教育目標(到達目標)に関するアンケートを実施し、教育目標の評価・分析を行っている。卒業後の卒業生の活動状況については十分把握できていないため、今後は就職先との連携を図り、卒業後の状況を把握していく。	1.6			
		2-1	卒業時の到達状況を分析している。					2.0		
		2-2	卒業生の就職・進学状況を分析している。					1.9		
		2-3	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は教育理念・教育目標との整合性がある。					1.7		
		3-1	卒業生の就職先での評価を把握し問題を明確にしている。					1.1		
		3-2	卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。					1.4		
		4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。					1.3		
		4-2	卒業生の活動状況の分析結果を教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。					1.4		
VIII 地域社会 / 国際交流	地域社会	1-1	社会との連教に向けて、地域のニーズを把握している。	1.8	1.78	新型コロナウイルス感染症の関係でR2年より3年間ほど地元の行事等もなく、地域貢献できる機会が減っていたが、R5年度より行事等の再開もあり、地域住民との交流も図れた。地域のイベント、実習病院や関係施設のイベント等へ参加し、地域社会への貢献を今後も図っていく。卒業生の中には海外で看護職に就いている人もいるため、今後も継続して支援していく。留学生の受け入れ体制は現在整っていないため、今後検討していく必要がある。	1.8			
		1-2	看護教育の活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	1.9						
		2-1	養成所の教育活動について、地域社会へのニーズを把握する手段をもっている。	1.8						
		2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	2						
		3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	2.1						
	国際交流	3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2						
		1	国際的視野を広げるため授業科目を設定している。	2.1				1.6		
		2	国際的視野を広げるため自己学習に適した環境を整えている。	1.5						
		3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1.2						
		4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1.4						
IX 研究	1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	1.1	1.1	1.13	教員自身も研究の必要性を感じているが研究活動に必要な時間的・財政的保障が十分ではなく、自身の研究活動に取り組むことができていない状況である。新カリキュラムとなり新たな取り組みをしてきている部分もあるため、研究課題として取り上げ、成果の分析等を行っていくようにする。また、教員全体が研究活動に意欲がもてるよう、時間的・財政的保障できるようにサポート体制を整えていく必要がある。	1.1			
		2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。					1.2		
		3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。					1.1		
全項目平均値				2.02	2.01	全項目平均値	2.0	令和6年7月作成		